

すくいし 議会だより

No.74
編集 議会広報編集特別委員会



●今号の主な内容

6月定例議会のあらまし…2~4

町の考えをたず

一般質問 7議員が登壇…5~11

特集 生かせるか町の活性化に…12~13

常任委員会の活動報告…14~16

皆さんからのご意見／ふるさとへの便り(40)…18~19

6月定例会のあらまし



中屋敷十町長が3選出馬への意欲を示した6月定例会

補正で鶯宿温泉駐車場用地購入

平成22年第3回定例会は、6月4日から6月10日まで7日間の会期で行われました。

本定例会では、報告案件が5件、承認案件が4件、条例の一部改正案件が3件、議決を求める案件が3件、補正予算案件が2件、請願が2件ありました。承認と議案は全て可決し、採択した請願1件については意見書を発議し可決しました。

一般質問は7名が登壇し、観光振興、教育振興、介護保険、家畜伝染病防疫対策等について、2日間にわたり町当局の考えをただしました。

主な条例の改正

○雫石町職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例及び職員の育児休業等に関する条例の一部改正について（全員賛成⇒可決）

配偶者が育児休業をしている場合であっても、育児休業や育児短時間勤務等の承認を請求することができるよう改正し、3歳未満の子を養育するために請求があった場合には、時間外勤務をさせてはならない旨の規定を新設した。

○雫石町立雫石診療所使用料及び手数料条例の一部改正について（賛17、反1⇒可決）

病院が診療所になり、入院期間が180日を越える長期入院ができなくなったため、長期特定入院を削除し、新たに任意検査料として頸部超音波検査、けいぶ 血圧脈波検査、みやくは 骨塩定量検査の規定を設けた。

条例改正の主な質疑

問 長期入院の方は、他の病院か診療所あるいは自宅に移らざるを得ないのか。最終的には診療所の指導や紹介があるのか。

答 現在、最長で10カ月入院している方がいるが、老人ホームの入所待ちとなっている。今後長期入院は患者負担が増えるので、老人ホームなり老健施設へ誘導するよう努めていく。



完成間近の健康センター

補正予算（平成22年度）

○雫石町一般会計補正予算（第2号）（全員賛成⇒可決）

補正前の額	補正額	計
77億7,246万8千円	1億7,419万円	79億4,665万8千円

- ▶工場等設置奨励補助金 1,537万6千円
- ▶鶯宿温泉駐車場用地購入費 4,480万0千円
- ▶五区コミュニティ消防センター新築工事 3,835万7千円

○雫石町下水道事業特別会計補正予算（第1号）（全員賛成⇒可決）

補正前の額	補正額	計
8億3,908万4千円	1,044万9千円	8億4,953万3千円

- ▶測量設計業務委託料 1,000万円

補正予算の主な質疑

問 着地型旅行商品開発調査事業委託料の84万円の事業内容は。

答 町、観光協会、JR、旅行社、地元学生団体の5者が連携して、首都圏の学生を誘客する3泊4日のモニターツアーを企画実施するものである。

問 近隣に販売した1,000円温泉券は好評で完売した。首都圏からの誘客もいいが、温泉券の販売は本町のPRにつながる。PR関係の町長の考えは。

答 戦略的には外国人に、特に韓国、台湾、中国を中心にターゲットを絞るやり方、若者向けのもの、仙台圏をターゲットにしたもの、平日の地元対策などトータルの進めるべきであると考えている。

問 鶯宿温泉駐車場用地購入に当たっては、鶯宿の活性化に駐車場は必要と思うが、多額の税金を投入するわけなので、無駄のないよう適正な価格で購入してもらいたい。

答 不動産鑑定事務所より不動産鑑定評価の提出があった。町では財産評価委員会を設置しており、メンバーの方々に現地調査をし、財産評価、鑑定評価が適正なものか最終的な判断の基に用地を取得する。

問 公有財産購入費と工事請負費が合わせて9,000万円ほど予算計上されているが、新年度に入ってまだ2カ月しかたっていない。本来であればこれらは当初予算に計上すべきでなかったか。

答 当初予算編成は3月定例会に諮るが、予算編成は11月から始まっており事業の全体額は確定していない。あくまでも額の確定や予算規模が確定をしてから行う必要があるためやむを得ない措置だった。
※12～13頁に特集記事

問 教育委員会では、補助金を出して支援する団体と支援しない団体の基準、仕分けはどのように行っているか。

答 社会教育等関係団体運営費補助金交付要領に定められている。それに該当し要望があれば支援を検討する。

規約

○雫石・滝沢環境組合理約の制定に関し議決を求めることについて（全員賛成⇒可決）※12～13頁に特集記事

○岩手県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の増加及び岩手県市町村総合事務組合理約の一部変更の協議に関し議決を求めることについて（全員賛成⇒可決）

専決処分

○雫石町税条例の一部を改正する条例の専決処分に関し承認を求めることについて（賛17、反1⇒可決）

平成22年3月の税制改正により、専決処分により町税条例の一部改正。

- ①年少(15歳以下)扶養控除等の廃止に伴い、給与支払者等へ扶養親族等の申告義務を規定。
- ②65歳未満の公的年金等所得について原則給与所得からの特別徴収に改正。
- ③非課税口座内上場株式等譲渡所得に係る町民税の計算の特例を規定。
- ④たばこ税の税率の引き上げ(平成22年10月1日から施行)

○平成21年度雫石町一般会計補正予算(第10号)の専決処分に関し承認を求めることについて(全員賛成⇒可決)

補正前の額	補正額	計
92億4,374万3千円	△2,311万3千円	92億2,063万円

▶事業費の確定による補正

○平成21年度雫石町立雫石診療所特別会計補正予算(第4号)の専決処分に関し承認を求めることについて(全員賛成⇒可決)

補正前の額	補正額	計
10億6,580万1千円	△10万円	10億6,570万1千円

▶事業費の確定による補正

○平成22年度雫石町一般会計補正予算(第1号)の専決処分に関し承認を求めることについて(全員賛成⇒可決)

補正前の額	補正額	計
77億7,000万円	246万8千円	77億7,246万円

▶ごういえき口蹄疫対策の消石灰購入費 246万8千円



畜産農家に無料配布された消石灰

財産

○財産の取得に関し議決を求めることについて(全員賛成⇒可決)

19年経過した中型バスをマイクロバス(29人乗り)に更新

こうなりました 請願・陳情

■請願

○請願第2号 最低賃金法の抜本改正と安定雇用の創出、中小企業支援策の拡充・強化についての請願(不採択)

提出者＝岩手県労働組合連合会 議長 鈴木露道
盛岡地域労働組合連合会 議長 森本俊雄

○請願第3号 米価の下落に歯止めをかけ、再生産できる米価の実現を求める請願(採択)

提出者＝雫石町農民組合 代表 太田 勲

■発議

○発議第1号 米価の下落に歯止めをかけ、再生産できる米価の実現を求める意見書の提出について(全員賛成⇒可決)

「米戸別所得補償モデル事業」の補償単価を、2008年産米の全算入生産費である60kgあたり1万6,497円相当に引き上げることなどを国に対して求めるもの。

提出先＝衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、農林水産大臣

質問者
／
たなかえいいち
田中榮一 議員



観光客が目標値より大きく落ち込んでいるが

町長／大変厳しい結果となった

田中議員 観光ビジョンを策定し、住んでよし、訪れてよしの町を理念とし、平成21年度の観光客入込み目標数を320万人回と掲げて観光行政を進めてきたところだが、平成21年度の入込数は245万人回*となり、大きく落ち込む結果になった。各事業の検証・評価・成果、今後の改善策について伺いたい。

町長 平成22年度の目標を350万人回とし、毎年度行動計画を定め各事業に取り組んできたところである。指摘のとおり交流人口減と、大変厳しい結果となった。平成22年度の目標350万人回は現状では達成できないことから、今年度の目標は255万人回を目標値として各事業に取り組むこととしている。

インバウンド（訪日外国人）への取り組みは

田中議員 少子化に伴う日本の人口減少がますます進行する中で、東アジア諸国は著しい経済発展により海外旅行者が増大している。どのような施策を考えているか。

町長 県内で外国人観光客が一番多い当町において、インバウンドの取り組みは大変重要であるととらえている。国際旅行博覧会への出展、韓国からのモニターツアーの実施、外国人客向け観光ルートの確立、外国語講座の開催など受け入れ態勢を整えていく。

田中議員 韓国からゴルフにおいでの方から親善ゴルフ大会の希望がある。インバウンド誘致活動の一環として特別賞や町長賞の提供はどうか。

町長 大変素晴らしいことである。ぜひ企画実現のために頑張ってください、町も応援する。日韓親善のため受け入れ態勢にも配慮したい。

新しい観光地として葛根田川よしゃれ通りの開発は

田中議員 よしゃれ通りは、眼前に岩手山や一本桜、川の流れがあり、誠に風光明媚で絵になる所である。よしゃれ通りを桜並木にし、河川敷にはパークゴルフ場の設置をして、見る観光から体験できる観光への転換が必要であると考えるが町の見解はどうか。

町長 現段階では具体的な整備の構想には至っていない。しかしながら町の新しい観光資源、誰でも楽しめる生涯スポーツ普及の観点からコース整備の可能性について地元、関係団体と検討したい。

田中議員 現在、葛根田川水辺公園やよしゃれ通りにはトイレがなく、利用者が大変不便な思いをしている。早急な対応を望みたい。

町長 管理者の県と協議しながら、必要であればその方向で検討したい。

*人回…人が何回訪れたかを表す単位。
100人が1回訪れても同じ人が100回訪れても100人回となる。



質問者／
いしがめ みつぎ
石亀 貢 議員

環境家計簿*の全世帯配布を

町長／具体的な取り組みを検討

石亀議員 二酸化炭素など温室効果ガスの排出削減は、地球温暖化防止京都会議で論議された。一般家庭で消費する電気、ガス、水道、灯油あるいはゴミの排出量の抑制によっても削減される。本町も低炭素社会を目指し意識啓発として、CO₂の排出量を簡易計算できる環境家計簿を作成し、全世帯に配布することはどうか。

町長 岩手県の1世帯あたりの年間CO₂排出量が平成18年数値で全国平均の5.2トンより44%多い7.5トンで、家庭での取り組みが重要となっている。本町は寒暖差のある盆地のため、県平均と同程度もしくはそれ以上と推測される。排出量を抑制する取り組みは必要で、町民への啓発活動と合わせて環境家計簿作成は、環境に対する意識を高める手段として有効と考えている。現在、雫石町環境基本計画策定の最終段階で、基本目標の1つである環境への意識の高い町を目指して、環境家計簿について具体的な取り組みを検討したい。

児童の表彰条例制定について

石亀議員 教育を取り巻く環境は、急激な社会情勢と共に大きく変化している。子どもたちにおいても規範意識や学ぶ意欲の低下、忍耐力、継続力の低下など指摘されているが、児童の良さを見いだし自信と誇りを持たせ、健全な心身の発達を助長目的に表彰条例の制定はどうか。

町長 教育委員会、また町長部局として素晴らしいものは表彰するのは当然と思っている。教育委員会の表彰規程等も見直し、運用しやすいような形で基準を決めて対応したい。



岩手県版「環境家計簿」が掲載されている
いわて環境学習交流センターのHP

*日常生活から、地球温暖化の原因となる二酸化炭素(CO₂)をどれくらい排出しているのかを家計簿のように記録して確認してもらうためのもの。

質問者／
伊藤 哲夫 議員



本町の介護保険の現状は

町長／未利用者を解消し、今後も適正な事業運営に努める

伊藤議員 本町の場合、介護保険を利用する人が少ないため、利用料が低く抑えられていると認識している。介護保険の認定状況、利用度、財政状況はどのようになっているか。

町長 本町の介護保険認定の状況は、平成22年3月末現在で認定割合16.8%となっており、岩手県並びに盛岡圏域の認定割合16.7%とほぼ同率である。利用度については、平成22年3月末現在の要介護認定者における介護保険利用率は78.6%、要支援認定者における利用率は52.9%、全体の利用率は73.9%にとどまっている。町では介護保険サービスの利用の充実を図るため、平成21年度には介護支援専門員を2名増員し、要支援認定を受けた方々への確実な訪問等を行えるよう体制を強化しており、今年度は介護保険制度の周知を図るため、町内の医療機関へパンフレットの設置を行うなど、さらなる未利用者の解消に努めたい。

介護保険財政の状況については、平成21年度介護保険事業勘定特別会計の決算見込みは平成20年度と比較し1億3,800万円の増額となっている。また、介護給付準備基金については平成21年度末の残高は1億2,000万円ほどとなっている。現在のところ健全な介護保

険財政が保たれていると考えており、今後も介護認定の動向や介護保険サービスの利用状況等を見据えながら適正な事業運営に努めていく。

県道雫石東八幡平線の改良整備について

伊藤議員 本町の中心市街地を通る県道は交通量も多く、また、側溝に隙間があったりへん危険である。側溝の穴にふたをするなど、側溝改良も含めた歩道整備や道路拡幅を検討できないか。

町長 道路管理者である盛岡広域振興局土木部に確認したところ、側溝のふたの破損など補修が必要な箇所が数カ所あり、下町地区については間もなく補修工事を行う予定とのことであった。上町、中町地区の歩道の整備については、県が地元のまちづくりと連動した道路整備を行うまちば再生支援事業の候補路線として本町の中心市街地を取り上げたことから、中心市街地の活性化と歩行者の安全確保の面から県道整備のあり方を要望し、安全でにぎわいのある中心市街地のまちづくりの早期実現に取り組んでいく。



歩道の設置には多くの課題が残る



質問者／
おおむらしょうとう
大村昭東 議員

町農業改良普及センターを設置すべき

町長／提言の趣旨を踏まえ検討したい

大村議員 農業指導センターと集落営農センターを合併させ、県の農業改良普及センターからトップレベルの現役の人材を所長として派遣していただき、県の農業改良普及センター以上の機能を持った、町立の農業改良普及センターを開設してはどうか。

町長 これから農業と観光、特に農業が元気にならなければこの町の元気は考えられないので、指導的な役割を果たす指導センターの在り方を提言の趣旨も踏まえて具体的に検討していきたい。

大村議員 町が委託しているパソコン教室は、平成15年以前のように農業指導センターが自ら実施すべきではないか。そうすることによって委託料3451万1千円は別な農業指導等に使うことができるが、なぜ無駄な事を7年間も続けているのか。

産業振興課長 当時の勤務形態では制約等があり、農業指導センターの賃金や人件費では効率が悪かったためNPOに委託している。農家の方が都合のいい時間帯に受講できるなど便宜も図られている。

農業産出額について

大村議員 平成20年の本町の農業産出額は約78億9千万円で、平成14年に比べ約9億7千万円、平成2年比では28億6千万円減少している。その中であって近隣のある町は毎年産出額が伸びて約98億円となっており、本町の落ち込みが目立つが、産出額を伸ばしている自治体の農業施策をどのように調査研究し、本町の農業所得向上に結び

つけているか。

町長 農林業従事者の所得向上については「しずくいし産業再生戦略会議」を設置し協議を重ねているところであり、農業だけの視点ではなく、観光など他産業との連携を強化することをテーマにしている。

大村議員 農業産出額長期低落の歯止め策の一つとして、農業指導センターの在り方を棚卸し仕分けする必要があるのではないか。

産業振興課長 仕分けについて本町では事務事業評価あるいは政策評価に入っているものである。

教育振興について

大村議員 小中学校の教育現場には、学級崩壊やいじめ、学力低下など深刻な問題がさまざまな形を伴って起きているが、確かな学力の育成などについてどのような行動を起こしているか。

教育長 今まで年2校で取り組んできた仮説検証型の研究とイベント的な実施を、今年度より教育実践研究会として町内5校を指定し、日常の授業に直結した実践的指導力の向上につながるよう見直しを図っている。

大村議員 4月20日実施された全国学力テストに本町の小学校に自主参加校がないのはどのような経緯によるか。

教育長 全国学力テストのほかに二つの調査を実施しているので、それで十分であるというふうに判断したところである。

質問者／
すぎさわとしあき
杉澤敏明 議員



栗石高校を守り育てる方策は

教育長／栗石高校教育振興協議会等へ支援

杉澤議員 当町における唯一の高等学校である栗石高校は、未曾有の不況のなか、5年連続進路100%を達成するなど魅力ある学校づくりに取り組んでいる。

しかし、ここ数年、年々入学者が減少しており、特に町内中学校卒業生の減少が顕著となってきている。

栗石高校を守り育てるためには行政（町教委）、地域住民一体となった支援が必要であると思う。

行政（町教委）が栗石中学校から栗石高校への進学拡大にも積極的に関わることが不可欠であると思うが、町教育委員会は現状をどのように認識し、今後どのように取り組もうとしているのか伺いたい。

教育長 栗石中学校から栗石高校に進学する生徒数の割合は、平成20年度では25.5%、平成21年度は20.6%、平成22年度は19.6%と年々減少傾向にある。

このような中であって、栗石高校は本町唯一の高等学校であり、町の高等教育に果たす役割は大きく、高校の生徒数を確保していくためには、魅力ある、特色ある学校づくりが重要であると考えている。

栗石高校では、「あこがれの丘 青春道場」として、地域に開かれた魅力ある学校づくりに取り組んでおり、特に郷土芸能委員会のさんさ踊りの伝承活動や保健委員会の「保健劇」の取り組みは各方面から高い評価をいただいている。

町としては、このような素晴らしい活動を継続し、より

充実できるよう栗石高校教育振興協議会に継続した支援をするとともに、栗石高校の良さを中学生、保護者、町民に理解していただけるよう周知していきたい。

さらには、栗石高校を支援しようとする機運を高める取り組みを行っている「栗石高校を支援する会」等の活動に対して、教育委員会として今後も支援していきたい。

いわて銀河100kmチャレンジマラソン大会への支援を

杉澤議員 本町を全国に発信できる素晴らしい大会であることから、この大会の後援者である町において、ボランティア確保のための助成や町民に対するPRなど、さらなる支援をしていくべきだと思うが、どうか。

町長 ボランティアの確保については、大会主催者側が本町並びに近隣市町村の体育関係団体と連携を密にし、その体制を整えていただきたいと考えている。

また、大会PRについても同様に、本来、大会主催者側が行うべきものと認識しているが、町民が参加選手に声援を送れるよう広報紙等を活用したPR活動を行ってきたい。

杉澤議員 栗石マスターズ陸上競技協会の活動に対し、町から支援できないか。

町長 100kmマラソンに限定せず、町陸上競技協会との調整を図りながら、支援措置はトータル的には講じていくよう検討する。





質問者／
さる こしげひさ
猿子恵久 議員

3期目の再選への意欲は

町長／立候補の意思を表明する

猿子議員 町長就任2期目も4年目を迎え、残すところ5カ月あまりで任期満了となるが、中屋敷町長の今後の進退と3期目への再選の意欲について伺いたい。

町長 まちづくりに関する情熱は日増しに強く、地域主権が叫ばれる今日、自立できる雫石町の町づくりをさらに考えなければならないこの時期、「町のリーダーとしての責務を担うことこそが、私に課せられた使命である」との考えに至り、ここに3期目に向け、立候補する意思を固めたことを表明させていただきたい。

町長の政策宣言について

猿子議員 町長は2期目就任にあたり、町民との約束として20の施策を政策宣言として取り組んできたが、どのように進ちょくしていると考えるか、今までの評価を伺う。

町長 「美しく生活しやすいまちづくり」に関する環境保全の取り組みは、平成19年度に環境基本条例を制定、近々、環境基本計画を策定する。

「安全で安心して暮らせるまちづくり」に関する健康センターの整備については、町民が健康で安心して暮らせる地域社会の実現を目指し、本年1月には雫石診療所と地域包括支援センターを移転し、雫石町健康センターの一部を利用開始し、保健・医療・福祉が一体となった効率的で質の高い

サービスを提供できる体制を整備したところである。

「豊かな心を育む教育環境の整備」に関する安庭小学校の改築については、平成20年度に改築工事を完了し、安全な教育環境を整備したところである。

「産業間の連携によるみんなが潤うまちづくり」については、平成20年度に「しずくいし産業再生戦略会議」を設置し、さらには雫石銀河ステーションの改修により業務用産直施設を整備し、昨年度より同施設から町内観光施設等へ出荷するなど、連携の仕組みづくりに取り組んでいる。

「みんなが支え合う“結っこ”のまちづくり」に関する中心市街地の活性化については、産業の振興を図るまちづくりの拠点施設となる、まちおこしセンター「しずく館」が本年4月に開館し、地場産品の開発、伝統文化の交流、情報発信などを行い、町のにぎわい創出に取り組んでいる。

以上、私の政策宣言について、これまでの主な取り組み状況について述べたが、これらの評価については、おおむね着手することができたものと考えている。また、その進ちょくについては、ほぼ達成できたもの、順調またはおおむね順調に推移しているものもある一方で、経済情勢などによりやや遅れているものもあると評価しており、引き続き努力していかなければならない。

質問者
／
上野の三
四二
議員



こうていえき 口蹄疫の防疫対策に万全を

町長／畜産全戸に消毒薬剤を配布

住民サービス、利用向上が図られているか、評価検討し、成果比較、再指定にも資する検証をすべきだがどうか。

町長 指定管理計画の審査や事務事業評価は、町の財政方針会議で分析、内容評価をしている。さらに管理状況のチェックや指導助言を図り、イベントなどは関係団体とも連携して、最適なサービスの提供に取り組みたい。

学力向上対策と教育連携等について

上野議員 教育の質を高め、学力を向上させる環境づくりはどうか。問題行動や不登校など学校不適応児童が増加していると聞く。改善策を伺う。

教育長 学力向上の環境づくりには、少人数加配教員*、非常勤講師、支援員の配置など体制を整え、教師の授業力向上、公開研究会、仮説検証型研究の実施や教育実践研究会など授業力向上に取り組んでいる。学校不適應対策として臨床心理士など専門のカウンセラーによる相談活動などを行っていく。不登校児童生徒は、小学校、平成21年度5人で増加傾向にあり、中学校は平成21年度7人で横ばいであるが家庭訪問や保護者と話し合い学校復帰支援に努める。

*少人数加配教員…少人数による指導により、基礎学力の向上と、きめ細やかな指導の充実を図ることを目的として配置される教員。

上野議員 宮崎県で発生した口蹄疫の感染は、全国にも拡大する可能性が否定できない状況にある。家畜市場や観光で人と家畜の出入りが多い本町は万全な防疫対策が必要であるがどう進めるか。

町長 県家畜保健衛生所の指導の立ち入り検査や関係団体と連携して雫石町口蹄疫防疫対策会議を開催している。家畜農家1戸当たり消石灰平均7袋、消毒薬配布など防疫対策に取り組んでいる。県の危機管理意識と対応の遅れには不満な部分もある。

広域観光圏構想と本町滞在型観光の推進について

上野議員 国に申請した盛岡・八幡平広域観光圏整備計画の認定除外の要因は何か。再認定申請の考えはどうか。本町にとって県北部、沿岸宮古、秋田大仙市などを取り込み、滞在型観光を推し進めるべきと考えるがどうか。

町長 認定にならなかった理由は、盛岡から八幡平、鹿角を通り、十和田に抜けるルートだけではダメで、三陸リアス海岸を含めた観光圏の検討が指摘された。市町村の枠組みや事業内容を協議会として検討したい。本町と大仙市は歴史的にもつながりがあり、観光圏として両市町で促進していく準備を進めている。

公の施設の指定管理業務の検証について

上野議員 現在32施設が指定管理者によって運営管理されている。町の直営と比較して

生かせるか町の活性化に

本町では、このところ国や個人からの大型不動産の購入が相次いでいる。取得した財産（土地・建物）の総額は1億3,347万円に上るが、これらの利活用によって本町を元気にしたい。

町が3件の財産を取得へ



入居者をいかに増加させるかが課題

① 雇用促進住宅雫石宿舎の取得

平成33年度までに譲渡、廃止することが閣議決定され、町への譲渡が求められていた独立行政法人雇用・能力開発機構が運営する雇用促進住宅について、雫石町定住促進住宅（面積6,521.45㎡、5階建2棟80戸）として取得した。

- ▶ 取得所在地 雫石町長山鹿台久保1番3
- ▶ 建築年月 昭和59年11月
- ▶ 間取り／現入居数 3LDK／46世帯

- ▶ 譲渡条件 公的住宅として現入居者を引き継ぐ
- ▶ 取得価格 3,871万1,878円（土地、建物、税込、不動産鑑定評価額から5割減額し取得）

○取得後の料金体系等の主な変更点

	取得前	取得後
家賃	入居1～2年 33,600円 入居3年目以降 39,200円	1～2階 39,000円 3階 38,000円 4階 35,000円 5階 30,000円 ※子ども1人（20歳未満の扶養者）につき月額1,500円を減額
駐車場	1,800円／月	1,500円／月
敷金の免除	なし	世帯主または同居者が町外からの転入し、40歳未満かつ20歳未満の子どもを扶養する場合は免除



広大な土地をどう生かすか

② 農業者大学校旧研究室実習拠点施設等の土地、付帯施設の取得

独立行政法人農業者大学校が運営していた落葉果樹農業研究所の廃止に伴い、土地、建物の売却を進

めるにあたり、もともとの所有者の小岩井農牧に打診したが購入の意向がないことで、当町へ公益的利用に向け取得の打診があり、町の活性化に資する活用方法を具体的に検討した結果、町農業の持続可能性の確保や「食・農・観光」の連携強化による地域の活性化のためのフィールドエリアとして取得した。

- ▶取得所在地 栗石町沼返16番地9ほか
- ▶土地地目・面積 雑種地138,463㎡（農研機構）
雑種地2,669㎡（財務省）
- ▶建物 ポンプ室一式 16,000円
- ▶取得価格 4,996万1千円

園地利用の各種実証や施設整備等に多くの時間を要し、具体的な取り組みが数年先になることや利活用構想が明確でない等の意見がでてい

③ 鶯宿温泉駐車場土地取得

鶯宿観光協会より活性化事業の推進の中で駐車場が喫緊の課題となり、協会より駐車場用地取得要望書が提出され、町の観光産業の中心である鶯宿温泉の活性化が、町全体に効果が波及するものにとらえ駐車場土地を取得するもの。

- ▶取得所在地 栗石町鶯宿第6地割25-1ほか
- ▶土地面積 1,578.32㎡
- ▶予定価格 4,489万円
- ▶管理方法 鶯宿温泉観光協会に管理委託



鶯宿温泉の活性化に期待される駐車場用地

栗石・滝沢環境組合設立へ

栗石・滝沢の廃棄物関係事務を統合するため、平成22年10月1日 一部事務組合*の設立へ向けた規約が、今回の定例会で可決された。

現在、町内にはごみ処理施設がないため、単年度契約により滝沢村にその処理を委託しているが、長期安定処理の保障はなく、新しく処理施設を整備するには、短期間の実現が難しい。一方、滝沢村には、ごみ処理施設はあるが、管理運営費や起債償還に対する財源の長期的安定確保が求められる。

このような状況などから、廃棄物関係事務を統合して、栗石・滝沢の広域地域において、経済的で効率的な廃棄物行政の運営を目指すものである。

栗石・滝沢環境組合の本格稼働は、平成23年4月1日からの予定である。



一部事務組合として運営される滝沢村清掃センター

*地方公共団体が、その一部を共同して処理するために設ける特別地方公共団体

調査実施日／平成22年6月7日、7月7～9日
調査項目／所管事務調査、先進地研修

総務

総務常任委員会（前田隆雄委員長）は、以下の所管事務調査、先進地研修を行いました。

1. 所管事務調査

観光立町として、花と緑のまちづくりや国道46号線のフラワーロードの花の植栽など、景観づくりを推進しているが沿線に放棄車両や廃棄物放置、資材置き場など景観にふさわしくないものが見受けられるため、環境対策課長から状況説明を受けました。また、併せて一般廃棄物処理について、滝沢村への委託方式から環境組合設立に至るまでの経過などについて説明を受けました。

なお、今後の閉会中の継続調査事項は、次の通りです。

1. 自立する町づくりについて
 - ・景観に配慮した町づくりについて
 - ・まちづくり基本条例の制定について

2. 先進地研修

総務常任委員会視察研修は「まちづくり基本条例の制定過程等」について、7月7日から9日までの日程で栃木県高根沢町、日光市、福島県三春町を視察しました。

〔目的〕 議会としても自らが情報発信するなど町の活性化を図るため、議員一人ひとりが多くの知識と多様な情報を得るとともに、課題解決のため各方面にわたる調査研究が必要であり、閉会中の継続調査の申し出に基づき「自立する町づくり」のうち、「まちづくり基本条例の制定等について」主体に研修をする。

研修先および調査内容

- (1) 栃木県高根沢町「まちづくり基本条例」の制定経過等について



日光市での研修の様子

- (2) 栃木県日光市「まちづくり基本条例」の制定経過等について
- (3) 福島県三春町「町民自治基本条例」の制定経過等について

〔研修内容〕

議会や町は今まで以上に町民に目を向けて地域の実情にあった政策を展開し、町民もより主体的にまちづくりに取り組んでいく必要があります。研修先の各自治体からは、それぞれが全体で協働によるまちづくりを進めるために自治基本条例を制定している熱意が伝わってきました。



研修先の三春町役場の前で

調査実施日／平成22年6月7日、7月5～7日
調査項目／現地調査、先進地研修

教育民生

教育民生常任委員会（石亀貢委員長）は、以下の現地調査、先進地研修を行いました。

1. 現地調査

(1) 歴史民俗資料館敷地内の曲がり家、水車小屋

今年3月に、かやぶき屋根の全面葺き替えを完了した曲がり家や水車小屋を視察しました。今回の葺き替えは、37年ぶりに3,080万円の工事費をかけて行われたものです。

(2) 町営体育館

今年3月に完成した太陽光発電設備（屋根にパネル56枚を設置、太陽電池総容量10.08kw、工事費1,530万9千円）の発電状況とバスケットゴール一式（オレンジゴール、電光得点表示板、ファール回数表示器、大響ブザー、各2面対応分、購入費3,003万円）を視察しました。このほか体育館では、屋根の改修工事を行っており、機能維持が図られています。

また、今後の閉会中の継続調査事項は、次の通りです。

1. 教育振興について
2. 福祉の充実について

2. 先進地研修

7月5日から7日までの3日間に渡り、米原市の幼保一元化推進の取り組み、東近江市の小学校の適正配置、島本町の福祉・保険・文化の拠点施設を視察しました。

(1) 米原市（滋賀県）

米原市は合併した関係で公立の保育園、幼稚園が合わせて11園ありました。今回視察したのはその内の1つで「いぶき認定こども園」ですが、

ここは元々あった幼稚園に改築時期を向かえた保育園を閉鎖し統合したものでした。幼稚園が保育士を新たに募集したり、施設を増改築したりして認定こども園にするわけではなく、元々在る幼稚園に整備しなければならない保育園を統合したわけですから比較的やりやすい幼保一元化であると思いました。

(2) 東近江市（滋賀県）

八日市を中心とする東近江市ですが、合併したことにより現在小学校が23校、中学校が9校あります。市内の永源寺町では、平成21年4月に通学区域の統合があり、政所小学校が閉校しました。平成23年4月にも通学区域統合が予定され、甲津畑小学校が閉校する予定です。小学校が統合される過程では、保護者の危機感がまずあり、地域の合意形成がなされ、その上で審議会を立ち上げ、行政が最後に決断するやり方が良いようです。

(3) 島本町（大阪府）

「ふれあいセンター」は地下1階地上4階の施設で、レストランや町民ホール、福祉・生涯学習・図書館の各フロアがあり、屋外には多目的広場や遊歩道もありました。各種集団検診や子育て支援、介護予防等に利用されており、ホールはイスを片付ければ非難場所にもなるという、このような複合拠点施設は利用者としても大変便利であると思いました。



東近江市での研修の様子

調査実施日／平成22年4月26日、6月7日、
6月30日～7月2日
調査項目／現地調査、請願審査、先進地研修

産業建設

産業建設常任委員会(猿子恵久委員長)は、以下の現地調査、請願審査、先進地研修を行いました。

1. 町内企業調査視察

4月26日、町内企業の調査視察の手始めとして、特徴あるものづくりをしている次の企業を訪問しました。

(1) おりつめ木工 (御明神)

ユニークで面白いデザインの木工作品を作っていて、北海道から沖縄まで150回以上の個展や展示会を行ってきた。地元の木を使い、今後は北東北を中心に展示会を行っていききたいとのことでした。

(2) 有^は一製作所 (御明神)

寸法ばらつきは数ミクロン(千分の1ミリ)、ミリより小さい金属製歯車など職人技のものづくりをしている企業です。

(3) 森の粉屋さん (西安庭)

主には米粉作りをしているが、要望によりいろんな素材(野菜、きのこ、海藻など)を粉末に加工できる。近々、空き店舗を活用して中心商店街に店舗を構え、米粉をベースに加工のみではなく、いろんな製品を創造していく計画とのことでした。

また同日、鶯宿温泉開発(株)については、更新工事が完了した分湯槽の視察を行いました。

2. 請願審査

6月7日請願審査を行いました。

(1) 最低賃金法の抜本改正と安定雇用の創出、中小企業支援策の拡充・強化を求める請願

最低賃金1,000円とすることなどを求める請願であるが、現在の景気情勢等を考慮すると、今はその時機ではないと判断し、不採択としました。

(2) 米価の下落に歯止めをかけ、再生産できる米価の実現を求める請願

ミニマムアクセス(最小限輸入受け入れ数量)米の輸入を削減することなどを求める請願で、採択としました。

3. 先進地研修

6月30日～7月2日以下の先進地研修を行いました。

(1) 山形県遊佐町の畜産大賞地域畜産部門

最優秀賞を受賞した「飼料用米プロジェクト」(JA庄内みどり遊佐支店)

- ①飼料用米の生産利用により、飼料自給率の向上
- ②転作田が耕作放棄地になるのを回避し、地域資源である水田を利活用
- ③トウモロコシの輸入量を削減し、フードマイレージを短縮
- ④飼料用米の生産者、養豚経営者、豚肉加工業者、生協、消費者が農工商連携を通して、安全・安心なフードシステムを構築

これらをJAと町の職員が一体で率先、指導していました。



遊佐町での研修の様子

(2) 新潟県佐渡市の「朱鷺^{とき}と暮らす郷 佐渡産こしひかり」(佐渡市役所)

市職員が営業マンになり米の販路拡大に汗を流し、「役所は金を使うだけではなく、自分の食いぶちは自分で稼ぐ」という意気込みで取り組んでいました。

朱鷺を前面に出したイメージ作戦を展開し、「朱鷺と暮らす郷づくり認証米、生きものを育む農法」とした認証基準の下、佐渡産コシヒカリを「朱鷺と暮らす郷」と名打って、ほかのコシヒカリより高価格に設定しても売れているとのことでした。

(3) 福島県下郷町大内宿

一度舗装されたアスファルトを撤去して街道を復元するなど、新たに建物を造るのではなく、自然のものは自然のまま日本の原風景を後世に残しながら、観光振興を進めるまちづくりをしている地区でした。年々観光客入込み数が減少しているところが多い中、2万人(昭和60年)から約100万人超(平成21年)と伸ばしていました。

また、今後の閉会中の継続調査事項は、次の通りです。

1. 農業・観光の振興策について
2. 特産品の開発について

在京町友会との交流会に参加して



いわて県産の物産と観光展が6月19日～21日「いわて銀河プラザ」にて開催され、交流会に併せて視察を行いました。「まんずまんず売れるごと」

第32回在京町友会交流会が平成22年6月19日東京都荒川区日暮里「ホテルラングウッド」で開催されました。交流会には町当局より中屋敷町長はじめ7名が参加したほか、大宮県議会議員、加藤商工会会長、松田しずくいし物産振興会会長、小岩井農牧株式会社、天瀬良子さん、議会からは平子議長および5名の議員が参加しました。

交流会（午後1時開始）に参加して感じたことは、会場に到着すると同時に「ヨオー待っていたよ」とのアットホームな雰囲気から始まりました。会場全体がふるさと県産を思う語りの場となり、賑やかに楽しく交流しました。町友会皆さんの今日までのガンバリパワーに接することができました。また、県産の芸人である天瀬さんの唄、爆笑のイタコおろし、全員参加のさんさ、などなど。結びは「もっともっと

キラリ 輝く 県産」エールで閉会しました。

改めて町友会の皆さんに感謝と敬意を申し上げ報告とします。



あいさつをする中屋敷町長



あいさつをする平子議長



参加者の皆さんと一緒にと



議会へのひとこと ——皆さんの声を聞きました



はまだ きよし
濱田 潔さん
(61歳・籬野行政区)

町おこしは 人づくりから

新規就農10年目、長年盛岡で流通業に従事していたこともあり、就農当初「町おこしプロジェクト」に農業者として参加しました。その時は、商店街活性化がメインテーマで「軽トラ市」が生み出されましたが、私は常々「町おこしは人づくり」だと思っています。

元気で一生懸命の町には人も集まります。雫石には元気で一生懸命なグループがたくさんあります。それらを有機的に結集できれば、ものすごいパワーに変わります。それにはそれを束ねていける強いリーダーが必要です。そのために町民の中から若くて強いリーダー達の発掘と育成が必要で、特に育成には時間がかかりますので、町による組織的な育成システムの構築と議会の長期的な後押しが不可欠です。町おこしは施設整備より人づくりが一番の近道だと思います。



ほし せいいち
星 征一さん
(56歳・まがき行政区)

町内唯一の 県立高校の存続を

議員の皆様の日頃の活動に対して感謝申し上げます。

平成15年度に高校再編計画の説明から関わり、2クラス80人を切ったらということから、19年度には雫高を支える会が中3の生徒のご家庭を訪問したり、高校からPTAの各組織の懇談会に来ていただいたり、本当に真剣に取り組んでいただきました。その結果、募集定員を大幅に超える志願者となり、残念ながら希望者全員が合格することができませんでした。その後、2クラス60人2年間切ったらばと変わり、予断を許さない状況が続きました。今年度、新たな望ましい高校のあり方についての地域ごとの説明会等があると聞いております。

かつては1学年7クラスもあった高校、各界で活躍している方々も数多くいます。今年は郷土芸能委員会の全国大会出場、そして保健委員会の活動など素晴らしいものがありますが、存続にはこの学校の魅力をいかにアピールするかが問われていることから、先生方をはじめ生徒、そしてPTAも頑張っています。

どうか将来の町を担う若者たちを育てる地元高校がいつまでも存続しますように、私たちPTAも頑張りますので、議会の皆様のご指導をいただきながら、町民一丸となって取り組んでいただきますように、どうぞよろしくお願ひします。



さかもと とらお
坂本 虎男さん
(83歳・五区行政区)

町議会について 感じることに

町議会には、議会運営委員会のほかに三つの常任委員会があり、それぞれの立場で町政に努力されていること、頼もしく思っています。

私は議会の傍聴を数回していますが、質問に同感することもありました。しかし傍聴したことは忘れてしまいます。その点、議会だよりは、質問内容やそれに対する行政側の回答などが詳しく記載されておりとても良く、いつも全記事を読んでいます。

一般質問について感じることは「このことはどうなっているか」とか「あのことについてどうなっているか」などの質問がしばしばあります。この内容にもよることですが、質問については、質問者自身もそのことについて調査研究をして「このことについては」よりベターではないかといったような意見も質問に含まれば行政側も参考になると思います。

また、廃止された熱水事業について本当にもったいないと思っています。今一度、議会で再検討してみたらどうかと思っています。

ながさわたけ お

在京雫石町友会 会員 **長澤岳生さん**



「故郷に育てられたスキー人生」

私の父（新一）はPTAや町会議員などのほか国立公園誘致、国民休暇村誘致、登山道の整備など裏岩手山岳会としても活動しており、ほとんど家にいなかった。正月も登山でいつもいなかった記憶がある。でも父との思い出はたくさんある。

中学の頃、父の念願であった網張国民休暇村誘致が決まり、営業開始に向けて、毎週土日は父や兄、関係者と積雪、水量等の調査に出かけた。自然の中の冬場の作業であり非常に厳しかったが、終わってから温泉につかり、帰りは網張から牧野を經由して一気にバス停まで滑り降りた快感は今でも忘れられない。雫石高校山岳部時代は、立山（富山）で開催されたインターハイで全国優勝（最優秀）になった。部の先輩や地元山岳関係者のノウハウを生かした指導があった結果であった。また昭和45年岩手国体の時はサポート要員で、登山道の整備や国見温泉等の仮設トイレの設置等苦労したことが懐かしい。

高校卒業後家業の「農業、民宿等」を手伝いながら冬季は、石打スキースクールでスキー教師をし夏には地産トーカーンスキー場のコース作りの仕事をした。当時、春先になると良

質の雪を求めて石打スキースクールの網張移動教室が開催されておりその会期は地元でスキー講師をした。昭和48年民宿「たかわら」が全焼した際に写真やメダルなどたくさんの思い出の品を焼失した。非常に残念だが自分の心には故郷の多くの思い出が刻まれている。民宿再開を機に昭和50年に夢を追って上京した。

若林省三プロスキースクールとタイアップして「若林トラベル」や「イーグル観光」社員として営業し、冬期はスキー教師をした。スキー教師の経験で一番の思い出は千葉真一率いるジャパンアクションクラブ（志穂美悦子、真田広之ら250名）の10日間の冬季スキー合宿にヘッドとして昭和57年から16年間指導した。冬期以外はいろんな職種を経験して現在に至っているが子ども時代の経験や雫石気質の粘りと器用さが今を支えていると思っている。28歳の時スキーが縁で東京出身の妻と結婚、子供一人。現在は妻の実家の近くに住んでいる。仕事の都合で同級生の還暦祝いには出席できなかったが、いつか昔の仲間と語り合うことを楽しみにしている。



家族で参加したお祭りにて



志賀高原でスキー教室に参加（前列中央が筆者）

長澤岳生さんプロフィール

昭和25年6月27日生まれ（60歳）七区出身、屋号竹原（たかわら）。上長山小学校—西山中学校—雫石高校—若林トラベル—イーグル観光—石原慎太郎事務所—本間建設—内外建設—（株）ウノ企画（都市銀行、地方銀行、JA等の店舗改良、ATMコーナー設置）。スキー教師〔（社団法人）SIA（日本職業スキー教師協会）ステージⅢ〕

雫石町へようこそ

お嫁さん

お婿さん



妻の香織さん、長男の俊輔君と一緒に

ご縁があり、他の市町村から嫁いできた「お嫁さん」または、選ばれてきた「お婿さん」が登場します。

中村 ^{けいすけ} 慶介さん（29歳 花巻市石鳥谷町出身）
（旧姓：高橋）（谷地行政区在住）

Q-お二人の馴れ初めは？

-高校時代、同じ高校に通っており、私の一目ぼれです（笑）。

Q-雫石町に住む前のイメージと暮らしてみでの感想は？

-雫石町に住む前から何度か来ていましたが、私の地元と変わらず住みやすいです。そして人が優しいです。ぬくもりが感じられます。

Q-町に望むことは？

-町民みんなの声を聞き、雫石町をどんどん若くしていきましょう。

Q-今後のお子さんの予定は？

-現在、2歳の俊輔（長男）と妻のお腹に新しい家族を授かっています。男の子（次男）？みたいですので、次は女の子がほしいですね。

議会の主な動き 5～7月

5月	6月	7月
2日 しずくいし軽トラック市開会式	1日 駒ヶ岳山開き	1日 岩手山山開き
3日 早起き野球大会開会式	2日 八幡平直轄砂防事業促進期成同盟会第1回要望会	2日 八幡平直轄砂防事業促進期成同盟会総会
15日 雫石中学校体育祭	4日 議会広報特別委員会（第1回）	4日 雫石町消防演習
16日 第26回岩手山ろくファミリーマラソン	4～10日 議会定例会	5～7日 教育民生常任委員会行政視察
17日 政務調査会	13日 町消防操法競技会	7～9日 総務常任委員会行政視察
21日 鶯宿温泉観光協会定期総会	15日 政務調査会	8日 議会広報特別委員会（第2回）
25日 雫石商工会通常総会 議会運営委員会	16日 地域コミュニティ組織連絡協議会定期総会	15日 政務調査会 議会広報特別委員会（第3回）
26日 町村議会議員研修会	19日 在京雫石町友会交流会	22日 宮城県大河原町、秋田県井川町議会広報視察来町
27日 西山牧野農業協同組合通常総会	23日 雫石町小学校陸上記録会	
28日 議員全員協議会	24日 栃木県高根沢町議会広報視察来町	
	30～2日 産業建設常任委員会行政視察	

情報公開

●議長交際費執行状況

【議長交際費とは】
議長等が議会を代表し、外部との交渉、情報収集、町政協力者への謝意を表すために係る経費で、会費や香典などです。

【議長交際費内訳（4～6月）】

月	葬祭費		お祝い、会費	
4	1件	10,000円	5件	24,000円
5	1件	20,000円	4件	20,000円
6	0件	-	4件	20,500円
小計	2件	30,000円	13件	64,500円
合計（1月～6月）	2件	30,000円	24件	110,500円

■編集デスク

「しずくいし議会だより」が2年連続の入選となり日本全国の町村議会より研修の問い合わせが多く、事務局は大忙しのようです。「お泊まりは町内へ」とか「お食事は町内で」などPR活動にも余念がありません。不景気風が強い今日、少しでも町民の力になればとの気配りに頭が下がる思いがします。

（編集委員 川口一男）

●今号の表紙／本誌の表紙は、「まちの笑顔」シリーズでお届けいたしております。笑顔が絶えないまちの元気な子供たちの様子を紹介。今回は、「わかば幼稚園」に通う園児たちの笑顔です。